

『難病ケアマネジメント研修』に参加して

報告者：針原地域包括支援センター 辻 千穂

令和8年6月22日、Zoomにて国際医療福祉大学大学院教授 石山麗子氏の講義『難病ケアマネジメント研修』を受講しました。

難病医療費助成制度や難病対策による事業等、また、令和改正版の「障害者や難病患者等が安心して暮らし続けることができる地域共生社会（イメージ）」の中には、居宅や包括の記載がないことや、「2040年に向けた地域包括ケアシステムの深化について」の中には難病の相談拠点が記載されておらず、枠組みを越えた支援が必要ということ学びました。

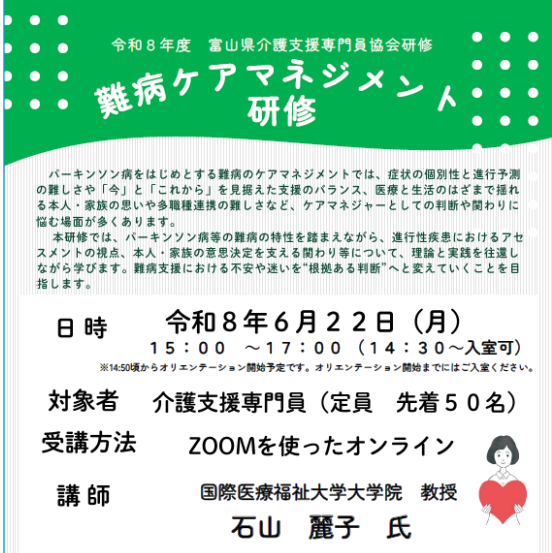
グループワークでは、「移動時に転倒しやすい・便秘気味・料理が億劫・表情が乏しい」等の症状から「何を想定し・どうするか」を考えました。

介護支援専門員が担当する難病のケースの中で一番多い疾患がパーキンソン病で、今後アルツハイマー型認知症の患者数を上回り、指定難病から外れるということも知りました。

症状の多くは高齢者にもよくあるものでもあり、また診断確定までに時間を要するため、広い視野を持った支援が必要と感じました。介護保険法では自立した日常生活を送ることを目標とし、難病の方は生活の質を維持していくことが大切ということも学びました。

後半は基本ケアパーキンソン病版検討表の説明があり、支援の具体的内容や必要性、アセスメント項目等があり、本当に大切な項目だと感じました。

難病の方のケアマネジメントは令和6年の法定研修でようやくカリキュラムに組み入れ、自分はどれだけ適切な支援ができていたのか、過去の経験や狭い知識の中での支援ではなかったかを振り返り、改めて多職種によるチームでの支援が重要であることを再認識する機会となりました。



令和8年度 富山県介護支援専門員協会研修

難病ケアマネジメント研修

パーキンソン病をはじめとする難病のケアマネジメントでは、症状の個別性と進行予測の難しさや「今」と「これから」を見据えた支援のバランス、医療と生活のはざまに揺れる本人・家族の思いや多職種連携の難しさなど、ケアマネジャーとしての判断や関わりに悩む場面が多くあります。

本研修では、パーキンソン病等の難病の特性を踏まえながら、進行性疾患におけるアセスメントの視点、本人・家族の意思決定を支える関わり等について、理論と実践を往還しながら学びます。難病支援における不安や迷いを“根拠ある判断”へと変えていくことを目指します。

日時 令和8年6月22日(月)
15:00 ~ 17:00 (14:30~入室可)
※14:50頃からオリエンテーション開始予定です。オリエンテーション開始までにはご入室ください。

対象者 介護支援専門員(定員 先着50名)

受講方法 ZOOMを使ったオンライン

講師 国際医療福祉大学大学院 教授
石山 麗子 氏